

## ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* Temminck

### 【選定理由】

日本固有種で、本州、四国、九州、その属島に生息する(Yamada, 2015)。野外での目撃機会が減少しており、森林環境の変化や市街化による森林緑地の減少等による生息環境の悪化などが生息に好適な環境や個体数の維持に脅威を与えていると考えられる。

### 【形態】

体重 1,300~2,500g、頭胴長 430~540mm、尾長 20~50mm、後足長 130~150mm、耳介長 60~80mm、頭骨最大長 79.3~92.5mm。北海道に生息するユキウサギよりも小型。腹面が白色である以外ほぼ全身が茶褐色であるが、耳の先端は黒い。本州の東北部や日本海側の積雪地帯および佐渡のものは、冬になると耳の先端が黒いのを除き全身白色になる。県内のノウサギは冬季に白化しない。歯式は I2/1, C0/0, P3/2, M3/3=28 (宮尾ほか, 1984 など)。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

春日井市(春日井市, 2006; 2008; 2010; 南ほか, 2018)、名古屋市(守山区)、瀬戸市、東海市、知多市、東浦町、美浜町、南知多町、豊田市、岡崎市、安城市、西尾市、幸田町、設楽町、豊根村、東栄町、新城市、豊川市、豊橋市、田原市(宮尾ほか, 1984; 愛知県商工部万博誘致対策局, 1996; 高田, 2002; 名和, 2010; 名和・野呂, 2015; 子安ほか, 2016; 藤井ほか, 2016; 東浦町生活経済部環境課, 2017; 子安, 2018)。

#### 【国内の分布】

本州、四国、九州およびその属島。島嶼部の分布は、佐渡島(亜種サドノウサギは環境省準絶滅危惧)、隠岐諸島、五島列島、天草諸島、下甕島(Yamada, 2015 など)。

#### 【世界の分布】

日本固有種(Yamada, 2015)。

### 【生息地の環境／生態的特性】

平野部から山地にかけての森林・平原・河川敷などに生息し、夏は緑草、冬は樹皮や枝先も食べる。主に夜行性で巣穴は掘らず、春から夏まで3~5回出産する(宮尾ほか, 1984 など)。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

1980年代には、島嶼を除く愛知県のほぼ全域に分布が認められ、「広域分布種」とされていた(宮尾ほか, 1984)。2010年になされた、名古屋市内の34区画に設置された自動カメラなどによる調査の結果では、守山区東谷山の1区画で確認されたのみで(名和, 2010)、岡崎市でも生息痕や目撃例の減少が懸念されている(子安・小鹿, 2014)。植林地・造林地においては、生息に適した明るい草地が減少していること、都市部の緑地公園で孤立した個体群の絶滅や都市化による生息地の消滅がノウサギ減少の要因と考えられる。知多半島、渥美半島、西尾市における絶滅が特に懸念される。

### 【保全上の留意点】

分布の周辺域では個体群の孤立化が地域的な絶滅を招きやすいため、広域を開発するには好適な生息環境の維持と連続する生息域を確保する配慮が必要である(子安・小鹿, 2014)。春日井市潮見坂平和公園の個体群(春日井市, 2008)のように住宅地に囲まれて周囲から孤立している集団は地域的な絶滅に注意を払う必要がある。

### 【特記事項】

名古屋市内では、守山区、名東区、千種区、天白区、緑区で生息が確認されていたが、守山区東谷山以外の個体群は絶滅したと考えられ(名和・野呂, 2015)、扶桑町、稲沢市、小牧市、愛西市、あま市、清須市、大治町、東郷町、みよし市でも絶滅している可能性がある。化石は本州西部の中期更新世から出土している(Yamada, 2015)。

### 【引用文献】

- 愛知県商工部万博誘致対策局, 1996. アズマモグラ・コウベモグラ. 瀬戸市南東部地区に生息する生物の多様性に関する調査, pp.26-29. 愛知県商工部万博誘致対策局, 名古屋.  
藤井太一・川本宏和・白子智康・上野 薫・南 基泰, 2016. 愛知県知多市臨海工業地帯企業緑地におけるカメラトラップ法による哺乳類調査. 日本緑化工学会誌, 42: 320-329.  
東浦町生活経済部環境課, 2017. 東浦自然環境学習の森基本計画見直し版, 24pp. 東浦町, 愛知県東浦町.  
春日井市, 2006. 高蔵林特別緑地保全地区植生等調査報告書(概要版), 43 pp. 春日井市, 愛知県春日井市.  
春日井市, 2008. 平成 18・19 年度自然環境保全地区等候補地二次調査報告(概要版), 8 pp. 春日井市, 愛知県春日井市.  
春日井市, 2010. 平成 20・21 年度自然環境保全地区等候補地二次調査報告(概要版), 8 pp. 春日井市, 愛知県春日井市.  
子安和弘, 2018. 人家から奥山まで生息する哺乳類. 新修豊田市史 別編自然, pp.586-603. 豊田市, 豊田.  
子安和弘・小鹿登美, 2014. ノウサギ *Lepus brachyurus* Temminck. レッドデータブックおかげざき 2014, p.173. 岡崎市, 愛知県岡崎市.  
子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝, 2016. 哺乳類. 豊田市生物調査報告書<分冊その3>, pp.337-367. 豊田市, 豊田.  
南 基泰・水越翔大・上野 薫・藤井太一, 2018. 愛知県春日井市築木の森におけるカメラトラップ法を用いた哺乳類調査, 生物機能開発研究所紀要 (18), 83-93.  
宮尾嶺雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
名和 明, 2010. 名古屋市内における哺乳類の記録. マンモ・ス特別号, (12): 17-23.  
名和 明・野呂達哉, 2015. ニホンノウサギ. レッドデータブックおかげざき 2015 動物編, p.37. 名古屋市環境局環境企画部, 名古屋.  
高田靖司, 2002. 守山と春日井の哺乳類. 私たちの博物館 -志段味の自然と歴史を訪ねて-, (62): 1-5.  
Yamada, F. 2015. *Lepus brachyurus* Temminck, 1844. The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.216-217. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.  
(子安和弘)

県内分布図

